

【評価実施概要】

事業所番号	0170200455		
法人名	医療法人社団 豊生会		
事業所名	グループホーム すぎの子		
所在地	札幌市東区東苗穂3条1丁目13-29 (電話) 011-789-5177		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南1条西5丁目7 愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成21年1月20日	評価確定日	平成21年2月13日

【情報提供票より】(平成21年1月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 5月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	26人	常勤 22人, 非常勤 4人,	常勤換算 2.78人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3階建ての	1~3階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	有(家賃の3カ月分)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(1月9日現在)

利用者人数	27名	男性	7名	女性	20名
要介護1	4名	要介護2	7名		
要介護3	8名	要介護4	2名		
要介護5	6名	要支援2			
年齢	平均 84.2歳	最低	69歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東苗穂病院 東苗穂たんぼぼクリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街でありながら、近隣には公園・商店・病院があり交通の便も良く、立地条件に恵まれた施設である。玄関前にはホーム独自で掲示板を設置し、健康・衛生・介護に関する情報や、入居者の作品を地域に発信している。研修体制も充実しており、月1度の内部研修会を開催、外部研修は全職員が共有出来るように報告書を作成し閲覧している。職員は個々で自己学習計画を立て、日々研鑽している。また利用者一人ひとりの思いを大切に『居室での法事を実現する』等、スタッフ全員が利用者本位の支援をしている点は大変評価できる。家族の来訪も多く暖かい雰囲気があり、これからも多に期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回外部評価での改善事項については、計画改善シートを活用し『同業者との交流を通じた向上』と『災害対策』は全員で検討し改善している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員は自己評価及び外部評価を実施する意義をよく理解しており、改善につなげるよう取り組んでいる。結果については誰でもが手にとって見られるようにしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2カ月に一度行われている運営推進会議では、家族・町内会長・地域包括支援センター職員・ホーム長・職員が参加。行事予定と報告、入居者の近況・防災計画・地域との交流・勉強会等、地域密着型事業所としての活発な意見交換が行われ、サービスの質の向上と事業所の運営に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>玄関・各ユニットには意見箱を設置しており『家族会』もある。また米所時の会話の中から希望・要望・意見をくみ取り、家族の思いを受け入れ、ケアに反映するよう心がけている。ホーム機関紙の定期発行。機関誌には一人ひとりの体調や日頃の様子を職員が手書きし送付している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、祭り・清掃・資源回収等の町内会行事には積極的に参加している。毎日の散歩や買い物、外出時の挨拶などでも地域の人たちと交流することに努めている。管理者は町内会の役員会に出席し、ホームに対する理解を深めるよう努力している。</p>

評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関・各ユニット居間・スタッフルームには『ゆっくり・一緒に・楽しく・豊かに』と、ホーム独自の理念を掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は勉強会・カンファレンス・リーダー会議等で話し合いの場を設け、実践にむけ日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、祭り・清掃・資源回収等の町内会行事には積極的に参加している。毎日の散歩や買い物、外出時の挨拶などでも地域の人たちと交流することに努めている。管理者は町内会の役員会に出席し、ホームに対する理解を深めるよう努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は自己評価及び外部評価を実施する意義をよく理解しており、改善につなげるよう取り組んでいる。結果については誰でもが手にとって見れるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2カ月に一度行われている運営推進会議では、家族・町内会長・地域包括支援センター職員・ホーム長・職員が参加。行事予定と報告、入居者の近況・防災計画・地域との交流・勉強会等、地域密着型事業所としての活発な意見交換が行われ、サービスの質の向上と事業所の運営に活かしている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>グループホーム管理者会議や連絡会には必ず出席し、情報交換・意見交換をし、研鑽している。また専門学校の実習生を受け入れる等、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホーム機関紙の定期発行。機関誌には一人ひとりの体調や日頃の様子を職員が手書きし送付している。また家族の訪問時には近況を報告している。必要に応じ電話での報告もしている。金銭管理については、こづかい帳にサインをもらい領収書を渡している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関・各ユニットには意見相を設直しており『家族会』もある。また来所時の会話の中から希望・要望・意見をくみ取り、家族の思いを受け入れ、ケアに反映するよう心がけている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員と利用者の馴染みの関係作りのために年一度、ユニット間での異動をしている。利用者が他のユニットに行き来しても、馴染みの職員が居ることで安心している。家族へは機関紙や来訪時、すみやかに報告している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月に一度の法人内研修を行っている。外部研修はスタッフルームの掲示板で公表し、参加の呼びかけをしている。また研修参加後は『研修報告書』を作成し、全職員が共有出来るようにしている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内外の研修会、他グループホームからの見学や他のグループホームへの見学を行い、交流を重ね意見交換しサービスの質の向上を目指している。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には利用者・家族の事前相談や見学で不安を解消する取り組みをし、施設や自宅に担当者が出向き面談する等、徐々に馴染めるように配慮している。今までの生活習慣を大切に、家族と相談しながら工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々の会話や活動の中から、利用者に応じた支援をしている。常に尊敬の念を忘れずに感謝の気持ちを持つよう心掛けている。時間を共有することで、利用者の立場に立ったケアを心がけ共に支えあう関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式を使用したアセスメントを行っている。日々の会話や様子から本人の希望・思いを情報収集し、利用者本位のきめ細やかなケアプランを立てている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日頃からの関わりの中で、より良く暮らすためのニーズや希望を汲み取っている。家族からも思いや希望を聞き、カンファレンスや情報交換などで検討し、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に一度の定期的な見直しを行っている。毎日の状態を記録し、モニタリングで検討・見直しを行っているが、変化が生じた場合は随時見直しを図り、実情に即した介護計画を作成している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>状況に応じ医療機関への送迎や受診の支援をしている。事業所の多機能性を活かし柔軟な対応をし、個々の満足度を高めるように努力している。またショートステイの受け入れも行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力病院医師による月2度の訪問診療・週1度の看護師による健康管理をしている。緊急時には医師・看護師とは、24時間連絡が付き体制が出来ている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>『重度化した場合・看取りの対応ホームとしての指針について』は文書化され、説明している。重度化した場合は本人・家族の思いを受け入れ、主治医と話し合いながら進めている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の人格を尊重し、人生の先輩として常に尊敬の気持ちを忘れず接している。本人のプライドや羞恥心を大切に、プライバシーに関わる事は、周囲に配慮しながら行っている。記録等の個人情報については、事務所で厳重に管理している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>毎日の決まり事はなく、基本的に自由に過ごしている。利用者の身体機能、日々の状況を把握し、個々のペースに合わせ、買い物・散歩・入浴等も希望に添い、個別性のある生活を支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好や健康状態に合わせたメニューを提供している。買い物・準備・後片付け等、三度の食事に関する一連の流れは、個々のペースで、職員と共に楽しみながら行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴希望日に体調を考慮し入浴している。入浴を拒む利用者には、言葉掛け・対応・入浴剤等を工夫し、さりげなく入浴支援をしている。羞恥心に配慮し同性介助を基本としている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備・調理・配膳・後片付け・掃除等、利用者の経験・知識を発揮する役割作りを設定している。外出・散歩・地域行事参加等の楽しみ事や、気晴らしの支援も積極的にしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	心身の活性化につながるよう、日常的に買い物や近隣散策で、戸外に出かける機会を作っている。一人ひとりの希望に添った外出支援を心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一階玄関は深夜のみ施錠している。利用者の行動傾向を把握、見守り支援をし鍵を掛けない自由な暮らしを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の協力のもと避難経路の確認・消火器の使い方・防災訓練・防火器具の点検等の実施。緊急時対応マニュアルもある。さらに周辺地域の人々にも協力を頂けるよう、運営推進会議の中で日頃から働きかけをしている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事・水分摂取量を記録し、母体法人管理栄養士の指導のもと、カロリー・栄養バランス・塩分摂取に気を配り、食欲が出るよう見た目にも美しく盛り付けしている。一人ひとりの身体・咀嚼・嚥下状況にあわせた食事を提供している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各ユニットのキッチン・事務室からはリビング全体が見渡せる様に作られている。共用空間の壁には利用者の作品や行事写真が飾られ、トイレ・浴室・廊下には手すりが効果的に配置されている。日常生活の匂いや音（食事作りや掃除）で五感を刺激し、居間の半円形の大きな出窓からは地域の雰囲気が身近に感じられる。</p>		<p>地下1階地上3階建のマンション風の建物は広く掃除が大変と思うが、さらなる毎日の整理整頓・清掃に期待したい。</p>
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>広い居室は昔から使い慣れた、なじみの家具・調度品・生活用品を各家庭から持参。また家族の写真や手芸作品等を飾り、安心して心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		

 は、重点項目。